

## アンケート調査から見た多職種連携の現状と今後の課題

◎丸山 智子<sup>1)</sup>、小澤 さち子<sup>1)</sup>  
 社会福祉法人恩賜財団済生会 龍ヶ崎済生会病院<sup>1)</sup>

【目的】2015年文部科学省より、臨床検査技師(以下 MT)、診療放射線技師(以下 RT)、理学療法士(以下 PT)を対象に、チーム医療の教育と指導者養成を目的に多職種連携医療専門職育成プログラム(以下 CoMSEP) が開設された。履修後、職種間の認識度や理解度の現状を把握するべくアンケート調査を実施した。【対象・方法】2015年度、CoMSEPに参加した茨城県内12医療施設のMT、RT、PTを対象。質問内容1:医療施設の類型、職種、経験年数 2:他職種への認識度(a よく知っている b 知っている c あまり知らない d 全く知らない)、業務内容分野別認識度、必要性を感じる他職種の業務内容 3:連携の優先項目 4:他職種と業務で関わる機会 5:連携に必要な分野や知識 6:連携の必要性【結果】回収率86% 質問1:病院関連82% 回答数MT209名、RT173名、PT245名 経験平均年数10.4年 質問2:医師(以下 Dr)、看護師(以下 Ns)に対する3職種の認識度 Dr[a.16% b.70% c.14% d.0%] Ns[a.15% b.69% c.16% d.0%] MT、RT、PTに対する認識度 MT[RT a.8% b.47% c.41% d.4% PT a.1% b.32% c.62% d.5%] RT[MT a.7% b.59% c.34% d.0% PT a.2% b.43% c.52%

d.3%] PT[MT a.2% b.28% c.65% d.5% RT a.3% b.30% c.61% d.6%] 認識度・必要性を感じる業務内容 MT[心電図、検体検査等] RT[X-P、CT等] PT[運動療法、介助方法等] 質問3:チームアプローチ、情報交換、合同勉強会 質問4:[多い11% 少ない32%、全くない57%] 質問5:質問2と同様の結果 質問6:[必要81%、あまり必要ない19%、全く必要ない0%]

【考察】3職種間の認識度は、DrやNsより低かった。これは、DrやNsは他職種と業務上関わることが多いが、3職種間は直接関わる機会が少ないことの現れと考えられた。PTと2職種間との認識度の差は、MTとRTは検査を主としPTは治療介入を主としているため、互いの業務内容の違いにより生じたものと考えられた。他職種の業務内容に関しては、認識度が低いほど必要性が低く高いほど必要性をより感じる傾向にあった。今回の調査から、まずは他職種の業務内容や役割を理解し互いを知る事が多職種連携を進めるには不可欠であることが明らかとなった。職種間の知識と理解を深め連携を図るための人材を育成するCoMSEPの取り組みは多職種連携の推進に有用であると考えられた。連絡先 0297-63-7111